

平成 22 年 11 月 6 日

奈良市保健所保健予防課
0742-23-6173

平成 22 年 11 月 1 日（月）奈良市内の医療機関より、回帰熱の発生届が奈良市保健所にありました。概要は以下のとおりです。

1．患者

20 歳、女性、大学生、県内在住

2．主な症状

発熱・倦怠感

3．経過

9 月 1 日（水）～8 日（水）まで、ウズベキスタンにボランティアのため滞在。

9 月 12 日（日）に 39 度の発熱あり、A 医療機関を受診。抗生剤処方され 3 日間内服し、一旦解熱したが、その後も周期的に、38～39 度の発熱・解熱を繰り返す。

10 月 6 日（水）B 医療機関受診。

10 月 8 日（金）奈良市内の C 医療機関へ紹介受診。外来にて経過をみていた。

11 月 1 日（月）患者血液より病原体の検出あり。回帰熱と診断された。

11 月 5 日（金）国立感染症研究所の行政検査にて、再度確認された。

4．現在の状況

患者は 11 月 2 日（火）より入院治療中であり、現在、発熱はあるものの全身状態は良好である。

5．その他

回帰熱は、自然環境に生息するダニ、もしくはシラミに咬着されることによって媒介、伝播される。そのため、患者を介しての感染の心配はない。

国内では、保菌節足動物、もしくは感染した哺乳動物（野ネズミ等）は見つかっていないことから、国内での感染の機会は極めて低いと考えられる。国内では、ここ数十年、患者の発生は報告されていない。

しかし、流行地域での野外活動や不衛生な環境では、感染する恐れがあり、渡航時には十分な注意が必要である。

回帰熱について

回帰熱は、細菌（スピロヘータ-）感染により起こる病気です。
わが国では、ここ数十年患者が報告されていない珍しい病気です。人から人へ感染することはありません。
国内でのシラミ、ダニの刺咬による回帰熱の心配はありません。

症状

潜伏期は4～18日（平均8日）です。
悪寒を伴って発熱し、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身倦怠感などを訴えることがあります。高熱は、3～6日間持続し、突然解熱します。この時期に発疹、意識障害、けいれんなどを合併することがあります。解熱7～10日後に第2回目の発熱発作があり、2～3日持続して解熱します。その後も発熱発作を繰り返します。

治療

抗菌薬による治療が有効です。

予防

予防には、媒介ダニ、シラミとの接触をさけることが重要です。
現在の流行地は、北米西部、中南米、地中海、中央アジア、アフリカであり、媒介ダニが生息する洞窟、廃屋などには、なるべく近寄らないことが重要です。また、渡航中回帰熱発生の情報を得た場合にはシラミ、ダニ刺咬に注意することが極めて重要です。